

Question.

一般歯科診療所で撮影されたパノラマエックス線画像を附属病院の放射線診断医に読影してもらうシステムはあるのでしょうか？

質問者

(山梨県 U.S.さん・79回)

Answer.

お答えします。ご指摘の読影システムはあります。

当科では、2016年8月、インターネット回線を介し、画像の送受信およびチャットメールが可能な相互情報共有システム（通称 遠隔画像診断システム）を構築しました。そのシステムの実際の運用例をご紹介します。

同システムに登録している診療所の先生より当科に宛て、**図1**に示します画像とともに、「本症例は、下顎右側第三大白歯に起因する含菌性嚢胞の診断で良いか」という問い合わせをいただきました。当科の放射線診断医が、下顎右側部（最終画像診断：含菌性嚢胞の疑い）をはじめ、画像全体についての読影所見（例 う蝕の有無、下顎頭の形態変化など）をお返ししますと、再度先生より「自分の診療所で抜歯可能であるか」、「近隣の口腔外科の先生に紹介するにも距離が遠く、可能であれば自施設で抜歯したい」との問い合わせがありました。

当科にて検討した結果、「最終的には先生のご判断および患者さんの選択となるが、画像上、下歯槽管に下顎右側第三大白歯が近接しており、専門医での抜歯が望まれる症例と考える」とコメントをお返しし、さらに「先生が抜歯される場合には、同病変がエナメル上皮腫などの腫瘍性病変である可能性を考慮し、必ず、処置時に組織片を採取し、当院あるいは近隣の検査会社に送付のうえ、病理組織検査を実施することをお願い」させていただきました。最終的には、当該患者さんは口腔外科専門医のいる中核病院で抜歯をされ、治療を終えられたとのことでした。

このような連携により、開業医の先生方には個々の症例に対して専門的な診断に基づく最適最良な歯科医療を提供できるというメリット、さらに患者さんには複数の治療法から選択していただけるという



図1 問い合わせのあったパノラマエックス線画像
30代、男性

メリットが生まれると考えます。また我々大学に所属する歯科医師としては、扁平上皮癌をはじめとする悪性疾患症例の早期発見、早期介入につなげられるというメリットを想定しており、「口腔がんのスクリーニング」という目的でも同システムを活用していただけるよう、口腔内を撮影した写真画像の受け付けも行っております（口腔外科専門医、口腔病理専門医が診断しコメントをお返しいたします）。

ご興味のある先生は是非一度、我々、歯科放射線・口腔病理診断科までお問い合わせください。母校である日本歯科大学附属病院と、まったく新しい「次世代型医療連携」を組んでみませんか？

※問い合わせ：03-3261-5511（代表）

歯科放射線・口腔病理診断科

質問の回答者



やぎした ひさお
柳下 寿郎

附属病院
歯科放射線・口腔病理診断科